

書評

NHK ファミリーヒストリー取材班編 『パンダ「浜家」のファミリーヒストリー』

（東京書籍株式会社、2022年）

真 殿 仁 美

はじめに

2022年は日中国交正常化50周年の節目の年である。日本と中国の間には、数々の歴史がある。そのなかでも今回は、パンダを通じた日本と中国の関係を見つめていきたい。

パンダは和名ではジャイアントパンダ、学名では、*Ailuropoda melanoleuca*、英名ではGiant Pandaと記される（上野動物園ホームページ⁽¹⁾）。絶滅危惧種の対象から外れたものの、保護活動の重要性が指摘されている種類の一つである⁽²⁾。周知のとおり、パンダは大人気である。この大人気のパンダは中国の対外プロパガンダ戦略にも活用され、「パンダ外交」として外交のみならず経済、政治などの面においても重要なポジションを占めている⁽³⁾。



本欄において紹介する書籍は、見つめ合う親子パンダが表紙を飾る『パンダ「浜家」のファミリーヒストリー』である。この書籍は、中国から来日し、日本で暮らし、日本で誕生したパンダ一家「浜家」（はまけ）の歴史を紐解くための重要な書籍である。本書の構成を紹介するにあたり、先ず、「浜家」について触れておこう。

「浜家」は、和歌山県の白浜町にあるアドベンチャーワールドで暮らしてきた（いる）パンダ一家を指す。ここで誕生したパンダの名前にはすべて「浜」がつけられている。本書の主演である彩浜^{さいひん}は、「浜家」の家系図（本書：4-5）によると16番目の子ども⁽⁴⁾にあたる。2020年11月には、彩浜の妹にあたる楓浜^{ふうひん}が誕生している。パンダの生息地として知られる中国を除いて、これほどまでの大家族を成したのは、この「浜家」が初めてである。アドベンチャーワールドには現在、彩浜や楓浜をはじめ、お父さんパンダの永明^{えいめい}、お母さんパンダの良浜^{らうひん}、お姉さんパンダの桜浜^{おうひん}、桃浜^{とうひん}（桜浜と桃浜は双子）、結浜^{ゆいひん}の合計7頭のパンダファミリーが暮らしている。

「浜家」が暮らすアドベンチャーワールドには、ブリーディングセンター（1995年開設）があ

り、ここは中国四川省の成都にあるジャイアントパンダ繁殖研究基地の日本支部にあたる。このブリーディングセンターは、ジャイアントパンダの自然繁殖を目指し、さまざまな共同研究に取り組む重要な拠点になっている。

1. 本書出版までの経緯、ならびに本書の構成

本書は、2020年1月にNHK総合テレビで放送された「ファミリーヒストリー パンダ・彩浜 ～和歌山・白浜パンダ一家のルーツ」の番組を書籍化したものである。この番組において、人間以外の動物が主人公として取りあげられたのは、彩浜が初めてのことであった。

本書は〔番組編〕、〔楓浜編〕、〔資料編〕の3部で構成され、〔番組編〕は、第1話～第10話があり、主にNHKのテレビ番組の内容に基づいた記述となっている。〔楓浜編〕、〔資料編〕は、出版社の東京書籍編集部が加筆している。人気番組の待望の書籍化であり、本書の帯にもそれが記されている。「浜家」の足跡や家系図のみならず、貴重な写真も数多くあり、読み応えのある書籍である。本欄では、本書の主人公である彩浜を主として論じている〔番組編〕について取りあげる。

〔番組編〕は、第1話から第10話で構成し、第1話から第4話では「浜家」の父親である永明や、彩浜の先祖についてのルーツ、また、永明が来日するまでの過程について詳述している。世界の動物園で飼育下にあるパンダは、それぞれ個別の国際血統登録番号を有し、この血統番号と個体情報を網羅した血統登録台帳（スタッドブック）において情報を管理しているという。彩浜の血統番号は1154番である。さらに、父親の永明がブリーディングローン（希少動物の繁殖を目的に、動物園同士で貸借する制度）を活用して白浜に来るまでに、日本と中国の双方において多くの人が議論をし、関係を築いてきたことも本書を通して理解することができる。

第5話からは、白浜を舞台に、いよいよ「浜家」が形づくられていく過程が順を追って紹介されている。ここでは、「浜家」が大家族として繁栄していく背景に、彩浜の祖母である梅梅^{めいめい}や母親である良浜の子育ての巧みさがあったことについて触れている。第9話では、本書の主人公である彩浜の誕生秘話について述べられている。彩浜の誕生時の体重は、わずか75グラムで、通常の半分ほどしかなかった。「浜家」のなかで一番小さな赤ちゃんとして誕生した彩浜は、呼吸も心音も弱く、生命が危ぶまれたという。しかし、スタッフの懸命な努力によって、生後2日目には彩浜は自力で母乳が飲めるようになり、生命の危機を脱することができた。その後は順調に成長し、2022年8月14日には4歳の誕生日を迎え、体重は96.7キロに達している⁽⁵⁾。

本書には、彩浜が活発に遊ぶ写真がいくつも掲載されている。彩浜は、得意な木登りのほかに、遊具や氷などでも上手に遊ぶことができる。誕生日やクリスマスのイベントで、彩浜が氷や門松に興味を示す姿は、多くのメディアを通して配信されてきた。2022年12月27日に行なわれた迎春準備イベントからも、その様子がよく伝わってくる（写真1、2）。



写真 1、2 迎春準備のイベントに参加した彩浜

出典：アドベンチャーワールドホームページ、2022年12月27日。

<https://www.aws-s.com/topics/detail?id=top3480>, visited 2022/12/27.

2. 「浜家」を通して中国、世界との関係を考える

(1) 「浜家」のこれから

2022年12月15日、重大ニュースが飛び込んできた。「浜家」の永明、桜浜、桃浜の3頭が、四川省成都にあるジャイアントパンダ繁殖研究基地へ渡るといふ。「浜家」の動向に注目してきた評者としては、大きな衝撃であった。来日から28年が過ぎ、2022年9月14日に30歳を迎えた永明は、継続的な日中共同繁殖研究の計画に基づき帰国するという。白浜で生まれ8歳に成長した双子の姉妹、桜浜と桃浜は、これからの繁殖にそなえて中国に渡る。12月29日の続報によると、3頭は2023年2月22日に日本を立ち、成都へ向かうことが決まった。双子の姉妹とほほえましい関係を築いてきた彩浜は、このニュースをどのように受け止めたのだろうか。「浜家」はこの後、どうなっていくのだろうか。

(2) 「浜家」を通じて広がる関係

永明、桜浜、桃浜の3頭が白浜を離れることについて、寂寥の感が消えないのは評者だけではないだろう。しかし、「浜家」のこの3頭は、中国を含め世界とのこれからの新しい関係を築くうえで重要人物（動物）であることに注意を向ける必要がある。

現在、「浜家」の血縁パンダは、世界に41頭いることが明らかになっている（本書：66）。お父さんパンダ永明の息子や娘たちが中国に渡り、新しい家族をつくり、「浜家」が大きな家族に発展している。永明の孫たちのなかには、カナダやデンマークなど世界に羽ばたき、現地で愛される存在になっているパンダもいる⁽⁶⁾。これらのことから、白浜の「浜家」を通じて、世界とつながりができていることが分かる。

成都にあるジャイアントパンダ繁殖研究基地で主任を務めた張志和は、日中関係や繁殖研究のこれまでをふり返り「パンダが間にいたおかげ。パンダが中国と日本の絆になった」（本書：67）

と語っている。この発言は、パンダが国と国、人と人を結びつける重要な役割を果たしてきたことを裏づけている。

中国の外交戦略の一つである「パンダ外交」には、批判的な見方も示されているが、パンダが中心的な役割を担い続けていることは確かである。その中でも「浜家」は大家族を成し、これからも繁殖を経て、繁栄しつづけることが期待されている。「浜家」の家族が世界で活躍する姿を含め、「浜家」のファミリーヒストリーがより賑わいを増すことを、「浜家」の熱烈なファンの一人として、また中国研究に従事する一人として、これからも見守り続けたい。

《註》

- (1) 上野動物園ホームページ「上野動物園のジャイアントパンダ情報サイト」では、和名や学名、英名以外にも、パンダについての詳細を掲載している。パンダの飼育や繁殖についての詳細は、アドベンチャーワールドホームページ「ジャイアントパンダの飼育・繁殖について」を参照。
- (2) 2021年7月、中国はパンダを絶滅危惧種の対象から外すことを発表した。過去30年におよぶ繁殖プログラムが功を奏し、パンダの個体数が633頭にまで増えたという。しかし、この成果はまだ限定的であり、パンダの回復が保証されたものではない、と指摘している専門家たちもいる（NATIONAL GEOGRAPHIC 2021）。
- (3) パンダと外交に関する詳細については、家永（2012、2022）、NHK（2020）を参照。
- (4) 彩浜は、父親の永明にとって15番目の子どもである。アドベンチャーワールドの「浜家」のなかでは、16番目の子どもにあたる。名前に浜がつけられたのは、良浜が初めてであった。良浜は、来日した梅梅と中国で暮らしていた哈蘭の子どもとして2000年9月に、アドベンチャーワールドで誕生した。良浜はこんにちでは、「浜家」のお母さんパンダとして知られている。
- (5) 彩浜の体重は、2022年12月15日時点の体重である（『読売新聞オンライン』2022年12月28日）。
- (6) 中国とカナダの保護研究協定に基づいて2013年にカナダに2頭のパンダが渡った。2頭の内、オスの大毛が永明の孫にあたる。2頭は2018年に、カナダ西部にあるカルガリー動物園に引っ越しをした。2020年5月、カルガリー動物園は、2頭のパンダを予定よりも早く返還することを発表した。COVID-19の影響で国際貨物が滞り、新鮮な竹の入手が困難になったことが原因であるという。同年11月29日に、2頭は成都のジャイアントパンダ繁殖研究基地に戻ってきた（CNN 2020、AFP 2020）。

参考文献

- アドベンチャーワールドホームページ（2022）「TOPICS」
<https://www.aws-s.com/topics/detail?id=top3462>, visited 2022/12/15.
<https://www.aws-s.com/topics/detail?id=top3480>, visited 2022/12/27.
<https://www.aws-s.com/topics/detail?id=top3482>, visited 2022/12/29.
 アドベンチャーワールドホームページ「ジャイアントパンダの飼育・繁殖について」
https://www.aws-s.com/panda_breeding/, visited 2022/12/01.
 AFP BB News（2020）「パンダの「大毛」と「二順」、カナダから無事帰国」2020年12月1日。
<https://www.afpbb.com/articles/-/3319005>, visited 2023/01/03.
 CNN（2020）「カナダ・カルガリー動物園、パンダを中国に返還へ 笹の調達に困難に」2020年5月13日。
<https://www.cnn.co.jp/world/35153722.html>, visited 2023/01/03.
 家永真幸（2012）「第1章パンダがやってきた！（1972年）——中国の対日ソフト・パワー史」（園田茂人編『日中関係史1972-2012 Ⅲ社会・文化』東京大学出版会）、pp.23-51。
 家永真幸（2022）『中国パンダ外交史』講談社。
 NATIONAL GEOGRAPHIC（2021）「中国がパンダを絶滅危惧種から外す、さらなる回復へ不安材料は」

2021年9月8日。

<https://natgeo.nikkeibp.co.jp/atcl/news/21/090300434/>, visited 2023/01/03.

NHK (2020) 「NHK 政治マガジン」 2020年7月22日。

<https://www.nhk.or.jp/politics/articles/feature/42110.html>, visited 2022/12/31.

『読売新聞オンライン』 2022年12月28日。

<https://news.yahoo.co.jp/articles/9bc141c6c1b9b2a27df7602e9427090379488a8d>, visited 2022/12/28.

上野動物園ホームページ「上野動物園のジャイアントパンダ情報サイト」

<https://www.ueno-panda.jp/about/>, visited 2022/11/27.